

■平成24年度四国地方整備局関係予算の概要

平成24年度国土交通省関係予算については、東日本大震災からの復興等及び国民生活の安全・安心の確保に総力をあげて取り組むとともに、震災を契機として我が国が抱える諸課題を克服し、我が国の明るい未来を築くため、「持続可能で活力ある国土・地域づくり」（平成23年11月15日前田国土交通大臣発表）を強力に推進するための予算を計上したところです。

四国地方では、東北地方太平洋沖地震と同様の海溝型地震である東南海・南海地震や台風等により頻発する自然災害に対し、安全・安心の確保に向けて地域と一体となった取り組みを進めるとともに、美しい自然、四国遍路に代表される独自の「癒やし」「お接待」の文化と、国際的な競争力を有するナンバーワン企業、オンリーワン企業等、確かな力ある産業等との相乗効果により競争力を発揮し、四国地方全体の連携により自立的な発展を促進する必要があります。

このため、四国地方整備局においては、これらの方針を踏まえて、『地域の強みを活かし、四国地方全体の連携によって自立的に発展する地域づくり』に向けて、必要な社会資本整備を重点的、効率的かつ効果的に推進します。

詳しくは、下記HPをご覧ください。

http://www.skr.mlit.go.jp/infomation/yosanngaiyo24/index_24jikkei.html

■「一般国道33号 三坂道路」開通報告【道路部】

松山河川国道事務所で整備を進めてきた一般国道33号三坂道路（自動車専用道路）が平成24年3月17日（土）に全線開通しました。

一般国道33号のうち、三坂峠を含む区間は、特に線形不良箇所が多く、異常気象における事前通行規制や冬期の積雪・凍結等による通行障害が多発していました。

当事業は、こうした区間を地域高規格道路「高知松山自動車道」の一部として規格の高い自動車専用道路として整備することで、走行時間の短縮や急カーブ区間の回避、防災機能の強化、冬期における積雪・凍結等による通行障害の減少により地元観光施設への交流活性化や地域の救急医療活動の支援が期待されます。

開通当日は、沿道の各所で地元住民が集まり「久万高原町へようこそ」などと書かれた横断幕を掲げ、小旗を振って開通を祝いました。また、地元の青年グループ

による勇壮な石鎚天狗太鼓が披露され、開通イベントを盛り上げました。

■「平成24年自然災害フォーラム」開催報告【企画部】

平成23年には未曾有の大災害となった3月の東北地方太平洋沖地震をはじめ、5月から9月までの多くの台風により、四国や紀伊半島に記録的な大雨による土砂災害などが発生しました。

土木学会四国支部四国地域緊急災害調査委員会では、四国地域の自然災害に対して緊急調査を実施し、自然災害による被害の軽減に努めることを目的として設置されており、平成17年より災害調査や災害研究の情報共有を図るため、自然災害フォーラムを開催しており、今年度は平成24年3月21日（水）に高松サンポート合同庁舎で開催されました。

今回のフォーラムでは、京都大学防災研究所竹林洋史准教授による特別講演「2011年に発生した紀伊半島豪雨災害及びタイ水害の特徴と教訓」をはじめ、地震や水害、土砂害に関する国内外の調査や研究成果など、24編の発表が行われました。

津波高さのシミュレーションや津波から避難することを住民にどう動機付けさせるかと言った「津波」に関する発表、また、「災害時の通信確保」や「災害廃棄物」、「復興まちづくり計画」に関する発表など、東日本大震災の教訓から四国がどう備えるべきかということに通じるテーマが多く発表されたことが、今回のフォーラムの特徴としてあげられます。

なお、フォーラムの論文集の入手方法やプログラム概要などは、下記の土木学会四国支部のHPをご覧ください。

<http://www.jsce7.jp/>

■「第1回 四国におけるフェリー輸送の競争力強化に関する検討会」開催報告【港湾空港部】

四国と本州・九州との間を結ぶフェリー航路は、旅客輸送、貨物輸送の両面で重要な役割を果たすとともに、環境負荷の少ない輸送体系を実現しています。しかし、近年、利用が著しく減少し、航路の減便、撤退などが生じています。

このため、四国と本州・九州を結ぶフェリー輸送について現況や問題点等を把握し、

コスト削減等の競争力強化に資する対策の検討を早急に行い、今後の施策立案を進めていく必要があります。

そこで、上記検討の深化を図るため、「四国におけるフェリー輸送の競争力強化に関する検討会」を設立し、第1回会議を平成24年3月28日（水）に高松市内で開催しました。

会議は、香川大学土井教授を座長に、海上技術安全研究所、四国経済連合会、四国旅客船協会、フェリー事業者、港湾管理者、自治体、運輸局、地方整備局が出席して行われました。四国のフェリー輸送における現状や社会的役割等について報告が行われ、その後の意見交換では、出席者から「フェリーの重要性を一般の人に分かってもらう取り組みが必要」、「災害時の緊急物資輸送等の対応としてフェリー輸送に期待している」など活発な意見が出されました。

今後は検討会での成果を踏まえ、競争力強化を推進してまいります。